

## 巻頭言

### 大学評価



点検評価専門委員会 委員長  
自然科学研究科長  
花岡 美代次  
(薬学部教授)

大学設置基準の大綱化以来、大学における教育研究水準の維持向上のため、各大学の自己点検評価がやかましく言われるようになった。金沢大学でも全学の点検評価報告書「金沢大学 現状と課題 1993」(第1号)をはじめ、各部局の業績集や点検報告書が刊行されている。点検評価は大学の社会に向けての情報公開の一つとして、また、現状を認識し、次なる一歩への指針を得るための大切な作業である。しかし、果たしてこれがどれほど効果的に活用されてきたか、いささか疑問である。

第1号発行以降、金沢大学は大きく<sup>へんぼう</sup>変貌を遂げた。この4年間の本学の歩みと現状を大学各々が正しく把握し、共通認識を持った上で、新たな問題の解決・改善へ協力し合うことが本学発展の前提である。このたび、「金沢大学 現状と課題 第2号 1997」が発刊された。是非よく読んで、認識を深め合いたいものである。

評価は簡単なようで極めて困難な作業である。評価には客観性と基準設定が不可欠である。自己点検は、ともすれば自己満足に陥りがちである。これを避けるには外部評価導入しかない。米国ではアクレディテーション(accreditation, 基準認定)方式で、基準協会が一定の水準を設け、大学がその水準に合致するかどうか、実地調査も加えて綿密かつ厳格な評価を行っている。水準に合致しないと認定されると、政府等からの補助金や奨学金は打ち切れ、廃校を余儀なくされる場合もある。

最近、日本でも外部評価が盛んになってきた。本学では、がん研究所と医学部附属神経情報研究施設が外部評価を取り入れた。日本での外部評価は米国の基準認定に比べてまだ小規模で徹底さを欠いているが、それでも思いがけない指摘や提言が出され、参考になるところが大きい。全学的規模では大学基準協会による相互評価が1996年度から実施されている。本学でも、次回の第3号は相互評価に向けて作業する予定になっている。個々人の研鑽<sup>けんさん</sup>と協力が大いに望まれるところである。

## 今月の表紙写真

## Cover Photo

### 始動 創立50周年記念事業後援会

(関連記事は2ページ)



創立50周年記念事業後援会設立総会であいさつする岡田晃学長  
= 2月9日午前、金沢全日空ホテル(金沢市昭和町)で

### “前期日程試験” 本学入学を目指して約4,000人が挑む

(関連記事は2ページ)



問題冊子を配る試験監督者  
= 2月25日午前、文・法・経済学部A101教室(角間)で





# “ 入学者選抜試験(前期日程)” 始まる

金沢大学受験者総数4,088人(受験倍率2.84倍)

2月25日,角間キャンパスなど四つのキャンパスで,「平成10年度金沢大学入学者選抜試験(前期日程)」が行われた。

本学の志願者総数は4,273人(昨年度は4,311人)。このうち実際に試験に挑んだのは4,088人(外国語,昨年度は4,137人)で,受験倍率は2.84倍(昨年度は2.78倍)となった。合格発表は,3月10日に行われる。

なお,同選抜試験(後期日程)は3月12日に実施され,小論文や面接などが行われる。



試験開始直前の会場の様子  
= 2月25日午前,文・法・経済学部A101教室(角間)で



試験開始を緊張して待つ受験生  
= 同上

関連の写真もう1枚を  
表紙にカラーで紹介

## 募金目標額は3億円

# 「金沢大学 創立50周年記念事業後援会」設立される



発起人会で,あいさつする松原藤継議長  
= 2月9日午前,金沢全日空ホテル(金沢市昭和町)で

2月9日,金沢市内のホテルで「金沢大学創立50周年記念事業後援会」の発起人会及び設立総会が開催された。

総会では,福光博<sup>ひろむね</sup>発起人代表のあいさつ,岡田晃<sup>ひろむね</sup>学長のあいさつ,中西功夫<sup>ひろむね</sup>医学部長(記念事業基金設置推進委員会委員長)の経過報告に続いて,後援会会則,募金趣意書,後援会の事業概要などの議案が審議された。また,後援会会長に福光氏を選出し,総数103名の役員も決まった。



後援会設立総会で,あいさつする福光氏  
= 同左

関連の写真もう1枚を  
表紙にカラーで紹介





## 同窓会代表を迎えて 「平成9年度 学外有識者との懇談会(第2回)」を開く



意見を述べる同窓会の代表たち  
= 2月6日午後、金沢シティモンドホテル(金沢市橋場町)で

2月6日、金沢市内のホテルを会場として、今年度第2回目の「学外有識者との懇談会」が開催された。今回は、各学部同窓会の代表9名を招いて、「これからの金沢大学に期待するもの 大学と社会とのかわり及び学生にとって魅力のある大学づくりについて」をテーマとして行った。各代表は、日頃から本学の動きに関心を持ち、大学との関係を意識しつつ地域社会各方面で活躍されている方々で、特に 社会との交流、連携の推進、教育・研究の充実方策、新キャンパスづくりなどについて、活発な意見交換が繰り広げられた。

## “日本の大学教育”をテーマに 目指すべき大学教育の在り方を探る

教養教育機構研究調査部は、2月16日に国立財務センター教授の天野郁夫氏を招き、「日本の大学教育について」をテーマに本年度第3回目の講演会を開いた。

講演では、まず1990年代における日本の高等教育の変化に触れ、続いて大学評価の在り方や教職員の意識改革の必要性など2000年代における大学教育の課題に踏み込んだ。参加した約80人の教職員は、真剣な表情で講演に聞き入っていた。



講演する天野氏  
= 2月16日午後、総合教育棟会議室(角間)で



講演が終わった後、講師に対して、質問する本学職員  
= 同上



## 外国語教育研究センター特別講演会を開く

外国語教育研究センターは、2月23日、総合教育棟(角間)で本年度第1回目の特別講演会を開いた。

今回は、金子亨<sup>とある</sup>・千葉大学外国語センター長が、千葉大学における同センター設立の経緯、現状、問題点などについて語り、関係教職員が聴講した。



講演を前に紹介される金子氏  
= 2月23日午後、総合教育棟会議室で

## 平成9年度退職予定者を対象に 共済年金等の説明会を行う

人事課は、2月20日、事務局大会議室で「退職者説明会」を開いた。

これは、退職後の医療制度、退職手当、退職共済年金等について、それぞれの事務担当者が説明するもので、平成9年度末の退職予定者のうち、25人が参加した。



退職手当について説明をする人事課担当職員  
= 2月20日午後、事務局大会議室で

## “第19回 がん研究所セミナー” に約120人が参加

2月12日、13日の両日、医学部記念館(宝町)で「第19回がん研究所セミナー」が開催された。

今回のセミナーでは、10専門分野で合計33の研究発表が行われ、各々の発表が終わるたびに活発な質疑応答が繰り返された。



研究発表後の質疑応答  
= 2月13日午後、医学部記念館で





## 短期留学プログラムに関する 討論会を実施

留学生センターは、2月6日、北海道・名古屋・大阪・広島  
の各大学の留学(生)センターの担当教官を招いて、討論会  
「短期留学プログラムの実施と留学生センターの役割」を開催  
した。

討論会では、留学生の選抜方法、科目編成の在り方、授業  
に対する学生の評価などについて、意見交換が行われた。



活発な意見交換が繰り広げられた討論会  
= 2月6日午後、事務局第4会議室で

## 留学生 “人形浄瑠璃”を楽しむ!

2月13日と14日、外国人留学生を対象とした“スキー講習  
会・留学生交流行事”が実施され、留学生44人が白山麓の尾  
口村を訪れた。

初日は、村の中学生との交歓授業の後、古典芸能「文弥人  
形浄瑠璃 での舞」を鑑賞し、日本固有の人形浄瑠璃の趣き  
深い世界を堪能した。また二日目は、ほとんどの参加者がは  
じめてというスキーに悪天候にもかかわらず、チャレンジし  
た。



興味深げに“でく”を操ってみる留学生たち  
= 2月13日夕方、金沢学院大学白山麓研修センター(尾口村)で

## 2月の研修スナップ

### 厚生補導に係る研修会

期 日：2月12日  
受講者：関係事務担当者 15名  
場 所：事務局第4会議室



奈良女子大学の岡本好美厚生課専門職員を講師に招いての研修  
の様子  
= 2月12日午後、事務局第4会議室で

### 本学へのお客さま(2月)



シェフィールド大学(英国)ジル・ゴダード東アジア研究  
図書館長(左から3人目)  
= 2月12日、附属図書館館長室(角間)で

## うがし ゆたか 宇梶 裕 助教授(理) 「有機合成化学奨励賞」を受賞

理学部化学科の宇梶助教授は、このたび「平成9年度有機合成化学奨励賞」を受賞した。同氏は、酒石酸に2種類の金属を組み合わせることによって、これまで困難であった左右対称である物質の片側だけの合成に成功した。このことは例えば、薬の作用のうち“弊害”を抑えて“効用”のみを引き出すことへの応用に強い期待を抱かせるものである。



賞状を手にして喜びの宇梶助教授。左は記念メダル  
=2月27日午後、理学部研究室(角間)で

## 卒業生へ——ありがとう! きさらぎ さい 附属高校で「如月祭」

2月7日、教育学部附属高等学校(平和町)で卒業生を送る「如月祭」が催された。中でも、1年生によって演じられた「We have no message」は大変趣向をこらした喜劇で、会場は爆笑に包まれた。また、バンド演奏、吹奏楽演奏、クイズ大会なども行われ、卒業生たちは後輩たちの熱演に大満足の様子であった。



1年生によって演じられた喜劇「We have no message」  
=2月7日午前、教育学部附属高校体育館で

### 資料館コレクション (その11)

#### しほかわづつみしろいとおどしろくまいどうくそく 「皺革包白糸威六枚胴具足」

(兜:明珍勝家 作, その他:作者不明)

江戸時代中期の作。ただし、兜鉢は室町末期のものとされる。前立(兜の正面)には加賀藩直臣の合印である「金猪の目」、吹返耳の上に位置する跳ねの部分には「六角に左三巴」の据紋がある。胴には、「都是膽」の金物文字が付けられている。

加賀具足の特徴には、鉄の鍛えが良いこと、様々な素材による工芸技法が取り入れられていること、独特の形をしていること、色彩が鮮やかなことが挙げられる。どの具足(甲冑)も戦闘服でありながら、武士のファッション心や甲冑師のこだわりの技術を見ることができる。

#### 皺革包白糸威六枚胴具足

外鉢(兜)高: 18.5cm      鉢(兜) 径: 27.0×23.5cm  
前 胴 丈: 39.5cm      草摺(鬘下の)丈: 25.0cm  
総 重 量: 13.6kg





3月30日に

**「日本海域国際フォーラム in 金沢」を開催**

本学「日本海域研究所」は、3月30日、工学部秀峯会館（小立野）で「日本海域国際フォーラム in 金沢」を開く。

今回は、中国、韓国の研究者を交えての講演会と昨年発生した重油流出事故を中心テーマとした研究発表を行う予定。

学内教職員のほか、一般市民の参加も歓迎する。プログラムの概要は、次のとおり。

流出した重油を回収するボランティア  
=平成9年1月16日、珠洲市長橋海岸で  
(写真は2枚とも石田啓教授(工学部)が提供)

**《プログラム概要》**

午前の部 「日本海域研究所定例講演会」 (10:00~12:00)

あいさつ 石田 啓(日本海域研究所運営委員会委員長,工学部教授)

一般講演 奥田 晴 榎(日本海域研究所所員,教育学部助教授)

特別講演 柳 青 魯(韓国釜慶大学教授)「韓国の海洋利用と油汚染対策」

” 繆 国 平(中国上海交通大学教授)「中国の海洋利用と船の運動力学」

午後の部 「海上への油流出災害に関する研究発表」 座長;石田 啓 (13:00~17:20)

発表者 石田 啓(工学部教授)

後藤真太郎(金沢工業大学助教授)

松澤 照 男(北陸先端科学技術大学院大学教授)

上野 博 芳(北陸先端科学技術大学院大学学生)

柳 青 魯(韓国釜慶大学教授)

安田 孝 志(岐阜大学教授)

間瀬 肇(京都大学助教授)

青木 伸 一(豊橋技術科学大学助教授)

板垣 英 治(日本海域研究所所員,理学部教授)

早川 和 一(薬学部教授)

萩原 良 己(京都大学教授)

**編集後記**

3月となった。卒業生を押し出す張本人とも言える入学試験合格者たちが、アパート情報を物色している。事務職員である自分も異動シーズンを前にして、何となくそわそわしている。3月である。

平成11年に迫った創立50周年を前にして、いよいよ後援会が設立された。地域産業を支える立場の方々、各学部同窓生の方々が中心となり、節目を迎えた本学のために一所懸命になってくださっている。現役教職員としては、“仕方なし”

ではない“本気”で、自分の大学のために意味のある何かを残したいと思う。今だけではなく、将来につながる何か欲しい。

点検評価専門委員会の御努力により、「金沢大学 現状と課題第2号」が発刊されるが、特に“課題”を認識しての“行動”が大切である。これを基に、どう行動したかが今後評価されることとなり、その時には「こう変えた」と言う義務がある。

(池端)



# 空から見た我がキャンパス

その 平和町キャンパス (7.3ha)

(平成9年5月撮影)



長坂付近上空から陸上自衛隊金沢駐屯地方向に平和町キャンパスを望む  
本キャンパスでは、従来あった教育学部附属高等学校に加え、平成7年度に同小学校、中学校、幼稚園が統合し、互いに関連を持った教育が行われている。

## 置田さん(附属小6年)が スキー大回転で第3位!

3月1日に行われた「第7回 北國SENA CUPスーパー-G(石川県スキー連盟などが主催)の“小学校女子5・6年の部”で、附属小学校の置田彩さん(6年)が見事第3位に入賞した。



果敢に滑る置田さん  
= 3月1日、白山瀬女高原スキー場で



第3位の賞状とトロフィーを受け取った置田さん(写真中央)  
= 同左

平成10年3月20日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019  
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称“KUPIS”(キューピーズ)」  
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。  
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。

